

みんなで作ろう

多文化共生社会



アイヌ文化に学ぶ暮らしのヒント

日本には様々な民族が暮らしています。このような社会を生きる一員として、私たちがより良い社会をつくっていくためには、それぞれの民族の歴史や文化を知り、認め合うことが大切です。

北海道で独自の言葉や文化を育んできた日本の先住民族であるアイヌ民族やアイヌ文化に興味を持ち、より深く知ることで、日本文化のさまざまな発展のヒントが得られると思います。

ぜひこの機会にアイヌ民族について考えてみましょう。

アイヌ文化を学ぼう



多文化共生ってなんだろう？

話す言葉や習慣、食べ物、考え方が違う人たちがいて、一緒に暮らしている社会のことを「多文化共生(たぶんかきょうせい)」といいます。相手の文化を学び、ちがいを受け入れることも大切です。

さまざまな文化を知り、お互いを認めることで素敵な社会になるね！



アイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」

北海道東川町では、多様な文化と国内外の交流を推進し、多文化共生のまちづくりに取り組んでいます。

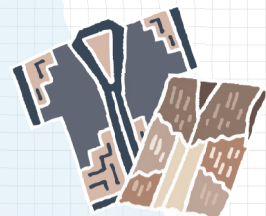
その一環として、2023年には大雪山文化と、大雪山系のふとこで生きるアイヌの文化を広めるとともに、差別のない世界(=多文化共生社会)を次世代に伝えることを目的に、東川町とさまざまな機関・団体と連携して“オール北海道”で作り上げた映画「カムイのうた」を製作。2024年以降はその映画に込められた想いを、若い世代をはじめより多くの方に気軽に触れていただけるよう、(株)北海道新聞社と連携してアイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」を発足し、多文化共生社会の実現と継承に取り組んでいます。



▲北海道最高峰 大雪山系旭岳 2,291m



アイヌ文化を知ること



今の時代を知るヒントを探そう



アイヌの人たちの暮らしや文化、信仰には、私たちが今の時代をよりよく生きるためのヒントがたくさんあります。

アイヌの暮らし、文化、信仰について学びながら、毎日の暮らしで大切なことを一緒に考えてみましょう。



暮らし



ラタシケ

アイヌ語で「ラタシケ」とは「合わせる」という意味があり、野菜、豆類を煮て魚脂または、獣脂と塩で味付けした料理です。日常食にも食べられていましたが、儀式や祭事にも欠かせない料理です。

出典／新ひだか町博物館

自然の恵みを無駄にせず感謝して生活する考え方は、みなさんの暮らしにも役立つかもしれません。



アイヌの人々の暮らしは、自然からたくさんの恵みをもたらしながら、自分たちの暮らしや文化を作ってきました。森や川、海で得られる食べ物をとても大切にしていました。

文芸

アイヌの人たちが長い時間をかけて育んできた文化の一つに、「口承文芸」があります。口承文芸とは、文字で書かれたものを読むのではなく、語り手の話を聞いて楽しみ味わうことで伝えられてきたものです。口承文芸は、大きく「英雄叙事詩」「神謡」

「散文説話」の3つに分けられていて、どの語り方も、それぞれの物語に合った雰囲気を作り出しています。アイヌで初めてアイヌの物語を文字化したのが知里幸恵で、『アイヌ神謡集』の著者として知られています。13篇のカムイユカラ（神謡）が収められているこの著作のアイヌ語表記と対訳、及び序文は今なお高い評価を受けています。



▲ 囲炉裏を囲んでアイヌエマツがユカラを歌っている様子
映画「カムイのうた」より

知里幸恵の詳細はこちらで確認できます



これらの物語は、ただ面白いだけでなく、自然の大切さや人とのつながりを教えてくれます。また、歌や詩もアイヌ文化の一部で、自然への感謝や心の気持ちを伝えるために作られました。こうした文芸を通して、自分たちの知恵や思いを次の世代へ伝えてきたのです。私たちがアイヌの文芸を知ること、充実した暮らしのヒントが得られるかもしれません。

信仰

アイヌの人たちは、この世界に存在するあらゆるものには「魂」が宿っていると考えていました。特に、動物や植物、火や水などの自然の恵みや、舟や白などの生活に欠かせない道具まで、さまざまなものを「カムイ（神）」として敬いました。

イオマンテ

クマの神！



カムイを敬う儀式の中で、代表的なのがイオマンテ（熊の霊を送り還す儀礼）です。クマをカムイとして迎え、飼育したクマを送り出すアイヌ民族の神聖な儀式です。



▲ イオマンテにおける、熊の飾りつけの再現

熊は山の神として特別に大切にされ、イオマンテという儀式で感謝を伝えます。この考え方は、自然や他の生き物を尊重する心を教えてくれます。



今の時代に必要とされる アイヌ文化の精神

多文化共生を尊重し、自然環境を守り、自然と共に生きることが大切な現代では、アイヌ文化の精神はとても参考になります。アイヌの人々が大切にしてきた「自然との調和」や「共生」の考え方は、私たちが考える環境問題や社会的課題の解決に重要なヒントを与えてくれるはずです。



今の暮らしの中で
アイヌ文化はどのように
生かされるのかな？

全てを大切にし、自然とともに生きる



▲カムイノミ



▲日常の食事の一例

アイヌの人々の自然や物への
考え方をすることで、

たくさんの物をどんどん作り、
使ってはすぐに捨てることが多い
私たちの今の暮らしを見直すための
大切なヒントがたくさんあります。



木綿衣

出典/ColBase
<https://colbase.nich.go.jp>



獣皮衣

出典/平取町立二風宮
アイヌ文化博物館

みんなが尊重される社会

アイヌの人々にとって、仲間同士で助け合うことは欠かせないものでした。狩猟や漁、家の建設なども、村全体で協力して行われました。こうした尊重と協力の精神は、現代社会においても非常に重要な価値を持つといえるでしょう。



▲チセ(家)



▲昔と同じ方法で建てたチセ

話し合いによる心豊かな社会

アイヌの人たちは、何か争いごとがあったときには、まずはしっかり話し合って解決することをとても大切にしています。力や争いに頼るのは、本当にどうしようもないときだけと考えていたのです。この話し合いを尊重する考え方は、今のわたしたちの暮らしの中で困ったことを解決する際のヒントになると思います。

コミュニケーションを大切に、話し合いを
尊重して平和的な解決をしてきたんだね！



アイヌ文化に触れてみよう！

北海道には、アイヌ資料の展示やアイヌ文化の体験ができる施設や博物館がたくさんあります。お友達やご家族と一緒に、実際にアイヌ民族の歴史や文化に触れてみてください。

デジタル教材も配信中！

ほか、北海道内のアイヌの施設は、デジタル教材(P29-30)でも紹介していますので是非チェックしてください！

WEBサイトはこちら



ウポポイ(民族共生象徴空間)

アイヌの人々の歴史・文化を学べるナショナルセンターとして、長い歴史と自然の中で培われてきたアイヌ文化をさまざまな角度から伝承・共有するとともに、人々が互いに尊重し共生する社会のシンボルとして、また、国内外、世代を問わず、アイヌの人々の世界観、自然観等を学ぶことができるよう、必要な機能を備えた空間です。



提供:(公財)アイヌ民族文化財団

INFORMATION

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3
電話/0144-82-3914
ホームページ/<https://ainu-upopoy.jp>

WEBサイトはこちら



知里幸恵銀のしずく記念館

ここは、北海道、登別。アイヌ語で、ヌプル・ベツ(川水の色の濃い川)と呼ばれました。この地に生まれたアイヌの少女、知里幸恵の業績を紹介するとともに、幸恵を通してアイヌ文化を広く伝えていくことが、この記念館の役割です。すべて一般の方々からの募金で建てられ、2002年から始まった募金活動は、のべ2500名以上の思いを集め、2010年秋、「知里幸恵銀のしずく記念館」として実現しました。



INFORMATION

〒059-0465 北海道登別市登別本町2丁目34-7
電話/0143-83-5666
ホームページ/<https://www.ginnoshizuku.com/>

WEBサイトはこちら





カムイのうたの学校

～ アイヌ文化の素晴らしさを学ぼう ～

つながる、
つづく、
カムイの想い。

カムイのうたの学校



アイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」はホームページでアイヌ文化の魅力と多文化共生社会の大切さを発信しています。アイヌ文化のことがわかるデジタル教材も自由に閲覧・ダウンロードできますのでぜひご覧ください

WEBサイトはこちら



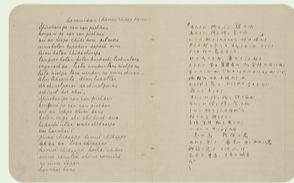
カムイのうたの学校コンテンツのご紹介

知里幸恵の紹介

知里幸恵さん(1903-1922)は、口語伝承のみで継承されてきたアイヌ文化を初めて日本語に訳した『アイヌ神謡集』の著者です。19歳という若さで生涯を終え、北海道の先住民族であるアイヌとして、いじめや差別に抗いながらも、アイヌ文化を後世に残すために尽力されました。その著書と、そこに込められた精神によってさまざまな人たちに感銘を与えています。



▲知里幸恵(左)と金成マツ(右)



▲アイヌ神謡集 知里幸恵編訳

映画ロケ地



2023年秋に公開された映画『カムイのうた』は旭川市をはじめ、道内のたくさんの場所で撮影をしました。本作の代表的なシーンをはじめ、ロケの軌跡を辿りながら、ストーリーのポイントになっているそれぞれのスポットをご紹介します。

アイヌ文化を学ぶ

北海道の先住民族であるアイヌの人々について、子どもたちが自ずと興味を抱き、より深く知ってもらうために、カムイのうたの学校では、いつでも手軽に触れられる「デジタル教材」を制作しました。もちろん大人の方が見ても十分にアイヌ文化についての理解が深められる内容になっています。



くわしくはこちら



映画「カムイのうた」

映画『カムイのうた』は、大雪山国立公園を有する北海道東川町が、大雪山地域の自然の美しさやアイヌ文化の重要性を伝えると共に、差別のない世界を目指すため、1903年に生まれ19歳の若さで亡くなったアイヌ文化伝承者・知里幸恵さんをモデルに、ALL北海道の連携のもと製作した映画です。



Webサイトはこちら



お問い合わせ

〒071-1426 北海道上川郡東川町北町1丁目1番2号
東川町 複合交流施設せんとぴゅあII内
東川町文化交流課宛
TEL:0166-82-2111(内線731)[平日 8:30-17:15]
Eメール/kouryu@town.higashikawa.lg.jp

教員のみなさまへご案内

アイヌ文化に多くの方が触れていただけるよう、学校施設やイベントホール、公民館などの会場をご用意できる方に、映画「カムイのうた」の映像媒体を貸し出し、地域や団体のみなさまでこの映画の上映会を開催していただく事が可能です。
申し込みページ/https://moula.jp/LP/kamui/screen/



くわしくはこちら

